

みなみ子ども白書 II 通算6号

—教職員から見た子どもの姿— (中間評価まとめ)

平成 23 年度も後半になりました。前回「みなみ子ども白書 I」で、子どもたちの学習意識や生活の様子をお伝えしました。今回は、教職員から見た子どもの姿を中心に、まとめました。

- 南小学校では、子ども達の学習や生活など、それぞれについて、教職員全員で目標と、目標を達成するための取り組みや手立てを話し合い、実践しています（5月に、「教育指導の計画」をお示ししています）。
- それぞれの目標について、もう少し細かく見るために、描いた子どもの望ましい姿をもとに評価規準を設けました。各評価基準について、子どもの様子、子どもや保護者の方へのアンケートなどから分析・検討し、4段階（a, b, c, d）で、4月から10月までの子どもの達成状況を評価・得点化しました。さらに、成果と課題を明らかにして、それをもとに、後半の取り組む方向を話し合っています。
また、校内研修の実施や校外の各種研修会に参加するなどして、指導力の向上に努め、子どもたちへの指導に生かすようにしています。
- 私たち教職員も一層努力してまいります。しかし、学力や心の成長は、学校だけでは、十分とはいえません。ご家庭には、「早寝・早起き・朝ご飯」「家庭学習」など、生活習慣や社会のルールを身につけさせることなど、学校と連携したさまざまなご協力をこれまで以上にお願いたします。

平成 23 年 11 月

大阪市立南小学校

教育活動全般(学校経営)について

目 標	<p>○ 心豊かで、自立的に活動する子どもを育てる。</p> <p>a.基礎・基本を身につけ、問題解決に活用しようとする子どもを育てる。</p> <p>b.互いを認め合い、高めることのできる仲間づくりを進める。</p>	10月時点 の総合評 価(ABCD)	3.0 (B)
--------	---	--------------------------	----------------

	評 価 規 準	主 な 取 り 組 み	評 価	子 ども の 様 子 や 経 過 達 成 状 況
観 点 別 の 評 価	a.学習意欲を持って学習に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人(個)に応じた指導、授業の導入の仕方の工夫、ワークシート等の活用 ・指導方法の工夫、継続した指導 	2.9 (B)	<p>・国語意識調査によると「好き」が8割「わかる」7.5割「楽しい」が8割弱。・内容教科によって差が大きい。</p> <p>○問題を解きたいという気持が高まってきている。 ○落ち着いて学習している。 ○互いを認め合う雰囲気の中、意欲的な児童が増えた。</p> <p>○児童の実態に応じて、問題数を少なく確実さをもとめ自信を持たせ、学習意欲が高まった。 ○めあてをはっきりさせた結果、意欲的に取り組んだ。また、課題をはっきりとモチ意欲的になった。</p> <p>○研究授業では特に意欲的な児童の姿がみられる。</p> <p>●遅刻や不規則な生活のため集中できない児童、生活背景からか意欲のない児童を多く感じる。 ●発表は消極的。 ●やられている気持ちが強い。</p>
	a.習った事を使って問題解決学習ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認 ・少人数指導や TT(複数教員による指導)による問題解決学習の推進 ・掲示等学習環境の工夫、ノートやワークシート等の活用 	2.4 (C)	<p>○個人差はあるが、これまでに学習したことを使ったり経験を基にしたりして問題を考えるなど、課題に取り組んでいる。 ○発表好きも多い。</p> <p>○ノート・テストでつまずきの早期発見に努めたので、できる児童が増えてきた。 ○問題解決に興味のある児童は進んでしている。 ○習ったことの定着が難しいが少しずつできてきている。</p> <p>●2極化。 ●教師主体の面が多い。●その場限りで積み重ねていかない児童が多い。 ●問題を読み取ることが苦手。 ●基礎基本を繰り返し問題解決学習へ。 ●既習事項・基礎基本の定着が弱く、導入段階では、習った事を使う等の力が弱い。</p> <p>●習った事を活用するところまで至っていない。</p> <p>・習熟別授業では、個人では習った事を使った問題解決学習が難しいので全員で意見を出し合って問題解決へ。 ・前時の学習と比べ違いを考えさせた。自分の力だけで解決は難。 ・既習事項を新聞にまとめている。</p>
	b.自分や友達の良さを見つけ、認めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝やおわりの会で「よかったさがし」や「がんばり」を認める場を設定 ・自他の良さに気付かせる指導、声かけや賞賛 	2.9 (B)	<p>○運動会の練習では友だちの頑張りに拍手を送る児童が多かった。○友達のいい所をほめる児童が多くいる。 ○特別支援の児童を中心に、認めて支援しようという気持ちがある。○「そんな考え方もあるのか」と関心を持つ児童がみられる。</p> <p>△仲間意識が育っていないが、高まってはきている。</p> <p>●自己肯定感が低い。●単学級で自己表現が未熟。被害意識が強い児童もいる。●学年により集団になったときの児童の言動や雰囲気がずい</p>

			<p>ぶん違う。 ●人を傷つける言葉もまだみられる。</p> <p>・友達のよさを見つける場の設定…思いやる言動、賞賛や励まし、互いのよさを感じる、良さを見つけ一緒に喜ぶ、よい所をみんなの前ではめたりよい所を発表することで互いを認め合うなど</p> <p>・場面設定が少なかった。</p>
b.学級の中で、互いの良さを認め合いながら協同作業ができる。	・班活動や係活動での指導、グループ学習などの場の設定	2.7 (B)	<p>○行事の中で一人一人の良さを生かし、互いに助け合いながら力を合わせようという態度が育ってきている。 ○リーダーがいて自分の役割を理解している。 ○学級活動を通して力を合わせ、協同作業ができるようになってきている。 ○子どもまつりや臨海学習、調理実習や合奏等で、互い協力して力を合わせている姿がみられる。 ○仲よくグループ活動している。</p> <p>△協同作業ができるが認め合うまでには至っていない。△自己主張が強い児童はいるがグループ活動ができつつある。 △グループでのトラブル多いが仲良く役割分担する姿も。 △協同作業はきちんとしているが認め合っているかは疑問</p> <p>●自分の意見を優先しようとする児童がいる。 ●互いのよさを認め合う場づくり必要。</p>
b.全校児童集会やたてわり班活動を通して、自他を尊敬し仲良く助け合うことができる。	・運動会でのたてわり競技、「南子どもまつり」、「わくわくタイム」、たてわり清掃などの設定と指導	3.3 (B)	<p>○たてわり班活動定着して高学年は立派に役割を果たしている。</p> <p>○児童集会等仲よくしている。 ○たてわりのつながりがある。 ○異学年が進んで交流している。 ○仲よく協力して楽しんでいる。 ○班で協力するゲームを工夫している。 ○高学年が低学年をサポートしている。 ○助け合いや仲間意識の高まりがある。 ○6年生を中心に低学年に優しく接して仲よく協力して活動している。</p> <p>●清掃では高学年のリードがある班とない班が。 ●高学年リーダーの自覚がでてきているが、中には自覚のない児童もいる。 ●自他の尊敬までは至っていない。 ●高学年を尊敬する態度があるが、十分とはいえない。●休み時間に他学年とのトラブルがみられることがある。</p>

今後の課題・方向	<p>[a.基礎・基本、問題解決への活用 → 支援・指導を一層工夫する]。</p> <p>・意欲的ではない児童に学力をつけること、明確な課題をもって学習できるようにすること、基礎学力を定着させ問題解決学習をすすめていけるようにすること 等。 そのため、</p> <p>○「学習量・学習習慣はどうか。」「その児童の力に合った学習課題なのか。学級の課題・個人の課題を明確にできているか。課題解決にあたっての仲間づくりや児童相互のコミュニケーションはできているか」</p> <p>「基礎基本が身についているか。低学力児童への手立て…覚えるところは徹底して覚えさせているか。反復練習を徹底しているか。」など、点検し一層の改善を図り実践する。</p> <p>[a. 互いを認め合い、高めることのできる仲間づくり → 全体指導・個別指導の継続と徹底を図る]</p> <p>・「良い所を見つけられる反面、友達の欠点などを相手の気持ちを考えずに言う児童」、「協同作業の中で人任せになったり協同作業ができなかったり、トラブルを起こす児童」、「責任感が希薄な児童・勝手な行動をとる児童」などに対しては、指導の継続と個別指導を行い指導・支援の徹底を図る。</p> <p>・リーダーの育成。</p> <p>○自分・友達のよさ…「場面設定がきちんととなされているか」等を点検し、指導・支援の充実を図る。</p>
----------	--

国語や算数などの教科の学習(教科指導)について

目標	○学ぶことの楽しさを味わわせ、主体的に活動できる子どもを育てる。 a.読み、書き、計算等の基礎的な力を育てる。 b.国語科を中心に自分の思いや考えを持ち、表現する力を育てる。	10月時点 の総合評 価(ABCD)	2.7 (B)
----	---	--------------------------	------------

※評価は4点満点。教職員個々の評価を、A=4, B=3, C=2, D=1として得点化し、集計し平均点をだしたもの()内は、ABCDの内ではいちばん多かった評価(以下、同じ)

。	評価規準	主な取り組み	評価	子どもの様子(経過達成状況)
観点別の評価	a.学年で習得する計算技能を用いて問題を解く力が身についている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学びタイムの活用・・・1時間目の始まる前に繰り返し練習 ・宿題等で反復練習 ・四則計算それぞれに練習プリント集を自作 	2.6 (B)	○計算技能が身についてきている。 ●個人差が大きい。
	b.主語・述語・修飾語などの文の構成や文章の中で語句と語句との関係などを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に国語の授業の中で、意識的に繰り返し取り上げる、ワークシート等を活用する等 	2.5 (BC)	○言語事項が身についてきている。
	b.授業やわくわくタイムなどで積極的に発表する態度が身についている。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や考えをもたせる工夫 ・学校行事などでの発表する場の設定と指導の積み重ね 	2.7 (B)	○積極的に発表しようという態度は身についてきている。 ●発表する児童に偏りがみられる。

今後	[a.読み、書き、計算等の基礎的な力の育成 → 基礎学力の底上げ] ・個人差が大きい⇒ 一人一人の「学力」をより把握し、各個人の到達度に合った技能の習得を図る。 [b.自分の思いや考えを持ち、表現する力を育てる→ 個に応じた指導の一層の充実] ・発表する児童に偏り⇒積極的に発表しにくい児童への効果的な支援・指導のあり方を一層追究する。
----	---

道徳について

目標	○思いやりの心を育てる。 a.いろいろな集団の場で、相手の気持ちを考えて行動する子どもを育てる。 b.ものを大切に扱う心を育てる。	10月時点 の総合評 価(ABCD)	2.6 (B)
----	---	--------------------------	------------

。	評価規準	主な取り組み	評価	子どもの様子(経過達成状況)
観点別の評価	a.やさしい言葉使いで友達に接することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、たてわり活動などの場での指導の積み重ね 	2.6 (B)	○特に、たてわり活動の時は、やさしい言葉づかいができています。 ●時々であるが、同学年同士のきつい言葉づかいが目立つことがある。
	b.記名して自分の持ち物を整理整頓し、大切にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標にあげて指導、学級指導、全体指導の継続 	2.6 (B)	○記名している児童は落し物が少ない。 ●名前なしの落し物が目立つ。個人差はあるが、整理・整頓につながりがある。
	b.みんなで使う物の後始末がきちんとできている。	<ul style="list-style-type: none"> ・片づけやすく点検しやすい収納設備 ・掃除や遊び時間の指導の継続・充実 	2.9 (B)	○掃除道具の片づけ、整理整頓はよくできている。

今後	[a.集団の場で、相手の気持ちを考えて行動する子どもの育成] ・きつい言葉づかい⇒その都度、指導するとともに指導を積み重ねる。誰に対しても、やさしい言葉づかいができるよう、まわりの子どもを育てていく。 [b.ものを大切に扱う心の育成] ・名前なしの落し物⇒指導者の方も記名させる意識が薄れがちになるので、再度、共通理解し、すべての物に記名するよう指導・声がけし、点検していく。 ・竹馬や一輪車を簡単に早く片付ける方法を検討する。
----	--

特別活動について

目 標	○集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。 a.自分の思いや考えが伝わるよう話し合いの基本を身につけるようにする。 b.子ども達の思いや願いを生かした自主的な活動を工夫する。	10月時点の総合評価(ABCD)	3.3 (B)
--------	---	------------------	------------

	評価規準	主な取り組み	評価	子どもの様子(経過達成状況)
観 点 別 の 評 価	a.話し合いのきまり(相手の話を最後までしっかりと聞く、話型など)話し合いの方法(司会の進め方、書記の仕方など)を身につけ、進んで話し合いに参加することができる。	・話し合い活動を通して、話し合いの進め方や話型が身につくように指導	2.6 (BC)	○進んで参加しようとする態度や子どもたち同士の話し合い、司会進行も少しずつよくなっている。 ●自分の思いを伝えるばかりで、友だちの話をしっかり聞き、多様な意見を尊重したり、よりよい考えにまとめていったりするところまでは至っていない。
	b.特別活動(学級活動、委員会活動、クラブ活動)で自主的に活動計画を立てたり、工夫して実行したりできる。	・活動計画の立案や、自主性を生かした活動への支援・指導	3.0 (B)	○指導者のサポートはいるが、自主的な活動ができています。

今 後	[a.自分の思いや考えが伝わるよう話し合いの基本を身につける] ・発言者の話をしっかり聞く。勝手に発言せず手を挙げて発言する。⇒指導を継続し、話し合いのきまりを徹底する。できるだけ多くの児童が意見を言えるように、場と方法を工夫する。 [b.子ども達の思いや願いを生かした自主的な活動の工夫] ・自主的に計画を立て、子ども達の思いや願いが実現できるような活動を増やす。
--------	--

「総合的な学習の時間」について

目 標	○課題に向かって自ら解決していく力を育てる。 a.地域の人材や教材、学習環境を有効に活用する。 b.個々の課題に対して段階的な目標を設定し、その解決に向けて取り組ませる。	10月時点の総合評価(ABCD)	2.8 (B)
--------	---	------------------	------------

	評価規準	主な取り組み	評価	子どもの様子(経過達成状況)
観 点 別 の 評 価	a.地域の自然や文化財等に接し、地域の人材や施設を活用したりすることによって、地域に関心を持ち、その良さに気付く。	・地域の方の協力、施設見学、町たんけん、文楽や琴、和太鼓など	2.9 (B)	○低学年は、地域への関心をもつことができつつある。 ○高学年は、日本の文化などに触れ、意欲をもって活動に取り組んでいる。
	b.見通しをもち、課題を解決していくとする態度を身につけている。	・導入や教材、資料の提示など指導の工夫	2.5 (B)	○めあてに向かって解決していこうという態度は育ちつつある。

今後の課題

今 後	[a. 地域の人材や教材、学習環境の有効活用] ・活動を通して、地域や文化のもつよさに気付くような働きかけを継続する。 [b. 個々の課題に対して段階的な目標を設定、その解決に向けての取り組み] ・課題を解決していくための自主的な方法や手段を考えられるような指導・支援を一層工夫する。
--------	---

生活指導について

目 標	○生命を尊重し、規律正しく安全に生活をする子どもを育てる。 a.安全に生活するためのルールを守る態度の育成に努める。 b.生命を大切に作る心や思いやりの心を身に付けさせる。	10月時点 の総合評 価(ABCD)	2.4 (C)
--------	--	--------------------------	------------

	評価規準	主な取り組み	評価	子どもの様子(経過達成状況)
観 点 別 の 評 価	a.廊下階段等でのルールを守ることができる。	・学級指導・全体指導、休憩時の指導の徹底と継続	2.4 (C)	○意識付けはかなりできている。 ●廊下・教室等で走り回る児童やボール遊びをするなど、危険に思える行動をする児童もまだ見られる。
	b.相手の持ちを考え、トラブルの解決にあたる姿勢が身につけている。	・協力場面の設定、学級指導・個別指導の継続	2.5 (C)	○トラブルの際に、互いに考え、解決しようとしている場面も見られた。 ●自己中心的な考えや自己主張の強さが目立ち、感情をコントロールできない児童もまだ見られる。 ●トラブルが発生した際に、子ども同士で相手のことを考えて解決できるまでには至っていない。

今 後	<p>[a.集団生活の基本的な生活習慣]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な歩行への継続指導を徹底して行う。雨の日の遊び等の内容の再検討。 <p>[b.生命を大切に作る心や社会のルールを守る態度の育成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情をコントロールできない子どもや、相手の気持ちを十分に考えられない子どもへの指導の徹底、指導方法・内容の検討、関係諸機関との連携強化等を継続して図る。
--------	--

健康の管理等について

目 標	○健康に関心を持ち、すすんで運動をする子どもを育てる。 a.運動用具・遊具を整備し、すすんで運動に取り組み、体力・健康の保持に努めることができるようにする。 b.食生活に関心をもつようにする。 c.望ましい生活習慣を身につけるようにする。	10月時点 の総合評 価(ABCD)	2.8 (B)
--------	--	--------------------------	------------

	評価規準	主な取り組み	評価	子どもの様子(経過達成状況)
観 点 別 の 評 価	a.運動用具・遊具を使って、運動場ですすんで遊ぶことができる。	・運動用具・遊具の整備と声かけ。 ・固定遊具下に人工芝	3.1 (B)	○運動用具・遊具を使って、すすんで外で遊ぶようになってきている。 ●外で遊ぶ子、中で遊ぶ子の二極化が生じている。 ●用具の片付けができていない。
	b.栄養に関することを意欲的に学び、食育に興味・関心をもつことができる。	・給食だより、給食室だよりの活用、給食時の放送、給食室前の掲示、栄養指導	2.5 (B)	○家庭科などの学習と関連付けて考えることはできている。 ○「いただきまーす」「校内放送」等で、栄養等に関心をもつことができている。 ●給食で好き嫌いが少なくなるまでには至っていない。
	c.年間計画を実施し、基本的な生活習慣づくりを努め、児童が関心を持っている。	・実態把握、保健室だより、チェックカード、「子ども白書」、保護者への啓発、学級指導・保健指導の充実	2.5 (C)	○キラキラチェックカードの取組や、保健だよりなどで、生活習慣に関心をもつ児童は増えてきている。 ●遅刻が多く、早寝早起きの習慣が定着していない児童もいる。 ●生活習慣への保護者の意識の弱さが感じられる。

今 後	<p>[a.体力・健康の保持] 外で遊ばない児童への声かけや委員会等と連携した取組などの手立てを考え実施する。</p> <p>[b.食生活への関心] 食育について、2・3 学期の学習が中心であり、そこでの指導の充実を図り、その成果を生かしていくようにする。</p> <p>[c.歯と口の健康への関心] 基本的な生活習慣が身に付いていない児童には、継続した指導を行う。児童に限らず、保護者に対しての生活習慣づくりへの関心を一層高める手立てを検討し実施する。</p>
--------	---

努力目標「気持ちのよいあいさつ」について

目 標	○気持ちのよいあいさつをする a.自分から進んで場に応じたあいさつができるようにする。 (月目標、講話、あいさつ運動を通して) b.「南オアシス運動」を推進する。(オアシスの掲示物、あいさつ運動を通して)	10月時点 の総合評価 (ABCD)	2.6 (B)
--------	---	--------------------------	------------

観 点 別 の 評 価	評 価 規 準	主 な 取 り 組 み	評 価	子 ども の 様 子 (経 過 達 成 状 況)
観 点 別 の 評 価	a.相手より先にあいさつができるようになる。	・登校時、校外活動時、行事、朝会などでの指導、継続した学級指導	2.4 (C)	○低学年では、先にあいさつする児童が多い。 ●声かけするとあいさつができる児童は多いが、“相手より先に”とまではいかない。
	a.あいさつの声が相手にはっきりと聞こえるようになる。		2.8 (B)	○大半の児童は大きな声で、あいさつができています。 ●個人差が大きい。
	b.友達や目上の人に対して「ありがとう」「ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えるようになる。	・学級指導、全体指導の継続、個別の声かけ	2.8 (B)	○声かけ指導等の結果、教職員に対しては「ありがとうございました」と言える児童が増えてきた。 ●友だち同士では、「ありがとう」を言い忘れている場面が目立つ。

今 後	[a.自分から進んで場に応じたあいさつができる][b.「南オアシス運動」を推進] ・あいさつ等の指導を継続して行うとともに、「あいさつ週間」などの取り組みを通して、一層の定着をめざす。 ・月目標やあいさつ週間に関する講話の際、『相手より先に』という言葉で、児童の意識を高めるようにする。 ・決まった場面では、きちんとあいさつができていますので、より具体的に「こんな時」「こんなふうに言う」などの指導を継続して行う。 ・声がけしなくても、自然に感謝のこたば等ができるように、今後も指導を続ける。
--------	--

特別支援教育について

目 標	○一人一人の良さが発揮でき、認められるような指導を工夫する。 a.児童相互の活動を通して一人一人が生かされる場を工夫する。 b.教職員全体で児童一人一人の共通理解を深める。	10月時点 の総合評価 (ABCD)	3.3 (B)
--------	--	--------------------------	------------

観 点 別 の 評 価	評 価 規 準	主 な 取 り 組 み	評 価	子 ども の 様 子 (経 過 達 成 状 況)
観 点 別 の 評 価	a.学校行事やたてわり班活動を通して、児童相互の交流ができています。	・交流の場の設定と実践	3.3 (B)	・運動会や清掃活動、その他、計画的に実施され、交流も定着している。たてわり班での活動は活発で、高学年はリーダーとして低学年の児童をしっかりとみている。
	b.特別支援教育に関する校内研修を実施し、児童の共通理解を図っている。	・低・中・高学年別にそれぞれ学期に1回の校内研修	3.5 AB	(教職員:計画的・定期的に各部会を実施。児童理解・共通理解が深まった)
	b.児童の実態に対応して「個別の指導計画」を作成し前期後期で評価することによって児童の課題を改善している。	・「個別の指導計画」の作成と到達状況の確認	3.5 (B)	(教職員:「個別の指導計画」を作成することにより、課題や目標の設定、共通理解が得られた。具体的な取組がしやすくなっている)

今 後	[a.児童相互の活動] ・児童相互、他学年との交流をさらにすすめられるような指導内容や場の工夫をする。 [b.児童一人一人の共通理解] ・事例研究、ケース会議等により、多方面から児童理解を深める。支援体制は十分とはいえない状況があり、特別支援教育のあり方の検討、校内体制の見直しとともに、ボランティアの募集、人員配置の要望等を行う。 ・成果がみえにくい児童の課題を改善していくため、指導・支援を一層工夫をする。
--------	--

(参考)

教員の研修計画について

目標	○校外での研修を深め、教員の資質の向上を図る。 a.校内研修を行い、指導力の向上に努める。 b.校外での各種の研修会に参加し、指導力向上に努める。	10月時点 の総合評価 (ABCD)	3.5 (A)
----	---	--------------------------	------------

観点別の評価	評価規準	主な取り組み	評価	経過達成状況
評価	a.校内研修体制が整備され、計画的に研修を実施している。	・全員研究(公開)授業、指導助言者の招聘、伝達研修、実技研修の実施	3.6 (A)	○授業研究や校内研修が計画的に実施できている。
	b.校外で開催される各種研修会に計画的に参加できる校内体制を整えている。	・低・中・高学年部を中心とした校内協業体制とサポート	3.1 (B)	○校内体制が整えられ、計画的に校外の研修会に参加できるようになっている。

今後	[a.児童相互の活動]・交流の場、機会などを、さらに設定していく。 [b.児童一人一人の共通理解] ・事例研究、ケース会議等により、多方面から児童理解を深める。支援体制は十分とはいえない状況があり、特別支援教育のあり方の検討、校内体制の見直しとともに、ボランティアの募集、人員配置の要望等を行う。 ・指導計画を生かした実践が十分とはいえない。指導計画が、個々の子どもの伸長につながっていない場合があるので、検討する。支援員も、教員と同じような対応ができるように助言・指示等をする。
----	---

平成23年11月現在 最近の「南小関連のテレビ・新聞等の報道」

【テレビ】

平成23年1月27日(木)	テレビ東京(大阪)系列「空から日本を見てみよう」	ミナミの紹介
平成23年4月7日(木)	TBS「ちちんぷいぷい」	入学式のように
4月19日(木)	TBS「教科書にのせたい」	ナスカの地上絵
6月15日(金)	TBS「ちちんぷいぷい」	プール開き(延期のため子どもの水遊びのように)

【新聞】

平成23年7月12日(火)	スポーツニッポン	鰻谷商店街・川柳発表会
8月11日(木)	毎日新聞	こども川柳
9月8日(木)	毎日新聞	震災の出前授業
9月16日(金)	毎日新聞	鰻谷こども川柳表彰
9月24日(土)	毎日新聞	まなびやの宝 和太鼓体験学習
9月29日(木)	日本経済新聞	臨海学習等での避難訓練
11月7日(月)	大阪日日新聞	交通安全啓発絵画コンクール表彰

※川柳関係では、毎日放送ラジオでも報道

なお、本年7/23～9/25の間、記念室にある大宝・道仁・芦池・精華小関連の資料が、大阪歴史博物館「民都大阪の建築力」で特別展示された。